

有斐斎弘道館の歳末恒例企画

忠臣蔵 講談×茶

討ち入りの日、吉良邸では茶会がひらかれていました。

吉良上野介は茶道一流の家元でしたが、大石内蔵助も茶人、大高源吾も茶人――

忠臣蔵を知らずして日本文化を語るなかれ。講談を聴かずして歳を越すなかれ。

ほろり涙しながら、一碗のお茶をしみみあじわうひととき。

旭堂南青

赤穂義士傳 赤垣源蔵 徳利の別れ

大義の為、心に泣けど顔には一滴の涙もぼさず兄弟が別れる元禄十五年十二月十三日――



2016年

12月11日(日)

11時の部 / 13時の部

料金 3,000円 (茶菓子付)

会場 有斐斎 弘道館

京都市上京区元土御門町524-1

申込み 075-441-6662

kouza@kodo-kan.com

旭堂南青 (きょくどうなんせい)

1980年大阪府生まれ。上方講談師。近畿大学文学部卒。2004年に旭堂南左衛門に弟子入り、南青となる。NHK、奈良テレビなど出演多数。高校での教育活動や、2014年フランスパリにてフランス語南京玉簾で好評を得るなど、多彩に活躍する。現代もっとも注目されている若手講談師である。

背景画・ゴトウ千香子《歌舞伎仮名手本忠臣蔵 十一段目》出陣を伝える山鹿流の太鼓がきこえる雪の園